

グループ4:

新世代ネットワークで具備すべき 新技術の役割を探る

司会: 寺岡文男
(慶應義塾大学工学部)

幹事からのメール

- アウトプット: 次のいずれかが望ましい
 - 産学官で実施すべきプロジェクトは何か?
 - 米国、欧州にないものは何か (米国/欧州にどう勝か)?
 - 5年後の成果は?
- 新技術の例
 - 自律分散、自己組織化、省電力、ユビキタス、AAA 等

寺岡のポジションペーパー

- AKARIアーキテクチャ設計プロジェクトに参加
- 階層型ネットワークアーキテクチャ再考
 - 6階層モデル
 - L5 (セッション層)を追加 → より抽象的な通信路の提供
 - ID/Loc Split & L3 protocol heterogeneity
 - intra/inter-node cross-layer collaboration
 - etc.
- 明日10:15からL5-APIについて発表

議論の進め方

1. 具備すべきと思われる新技術をリストアップ
1. 各新技術が新世代ネットワークで果たす役割を検討
1. 以下の観点から、必要不可欠な新技術を絞り込む
 - 産学官プロジェクト
 - US/EUに勝つ
 - 5年後の成果

Group4-2: 新世代ネットワークで具備すべき 新技術の役割を探る

- 参加者

- 井上 (NICT)、藤川 (NICT)、永田 (NICT)、山村 (NICT)、
新熊 (京大)、遠藤 (慶應大)、寺岡 (慶應大: 司会)

- さまざまな意見

- 運用を考えると AAA 基盤が重要
- マイグレーションのためにネットワーク仮想化技術が重要
 - 仮想化する資源の拡張: ユーザ側資源、孤立ノード
- 社会を変えうる新技術が必要
- 資源分配における経済メカニズム、社会メカニズムも併せて考慮する
必要あり
- 資源の有効利用のためにDTNが重要
- データ通信とアプリ間のギャップを埋めるためにデータ処理技術が
重要
 - リアルタイムに通信データを処理し、メトリックに反映させる

まとめ: 産官学プロジェクト

- 三位一体プロジェクト

- 研究者、サービス提供者、サービス利用者の全部が参加
- 統一評価軸のため、仮想的な通貨を導入
- try & error を繰り返す